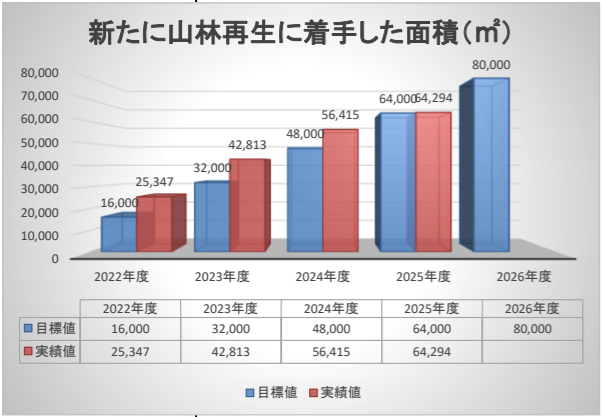


重点事業名	指標	取組	2024年度		2025年度		備考	
			実施内容	評価	実施内容	評価		
山林と農地の再生と活用	新たに山林再生に着手した面積(m ²)	①山林と農地の再生に取り組みます	(1)山林や竹林の再生・整備 ・市民団体や法人などにより山林や竹林の管理・保全が行われました。 ・小山田エリアの未利用の市有山林約13,000㎡について、新たな市民団体と活用に関する協定を締結し、団体による整備活動がはじまりました。 ・相原エリアにおいて、山林を所有する一般財団法人が境川源流周辺のハイキングコースを整備しました。 ・里山で活動するNPO法人と連携して、鶴見川源流保水の森のナラ枯れの状況調査を実施し、散策や活動に支障がある枯損木の伐採しました。		(1)山林や竹林の再生・整備 ・未利用山林の活用につながるよう、団体等への働きかけを行います。 ・引き続き、ナラ枯れ対策の伐採を実施します。2025年度は小野路町(馬場・富士ノ沢(ほか))の調査及び枯損木の伐採を行う予定です。	(1)山林や竹林の再生・整備 ・小山田エリアの市有山林の活用について、同地に隣接する農業者と協議しました。 ・都道155号線沿線(北側)の市有山林のナラ枯れの状況調査を実施し、車の通行や農作業に支障がある枯損木を伐採しました。	(1)山林や竹林の再生・整備 ・未利用山林の活用につながるよう、団体等への働きかけを行います。 ・引き続き、ナラ枯れ対策の伐採を実施します。2026年度は都道155号線沿線(南側)の市有山林の調査及び枯損木の伐採を行う予定です。	
			(2)農地の再生・整備 ・小山田エリアの市有農地の活用について、同地に隣接する農業従事者と協議しました。	(2)農地の再生・整備 ・市有農地の活用に向け農業従事者と引き続き協議します。	(2)農地の再生・整備 ・小山田エリアの市有農地(現況竹林)約2,700㎡について、近隣の畑を耕作している農業者と協定を締結しました。協定を締結した農業者が竹林整備とタケノコや幼竹の生産収穫を始めました。 ・遊休農地となっていた上小山田町の市有農地(計1,725㎡)を再生しました。農業研修の修了生2名が当該農地で野菜の栽培を始めました。	(2)農地の再生・整備 ・市有農地の活用に向け農業者と引き続き協議します。		
			(3)多様な主体との連携による里山環境の再生 ・都内の自治体が連携し、都内における森林整備やカーボンオフセット、現場体験、木材利活用などに取り組む「多摩の森活性化プロジェクト推進協議会」に2024年度から参加しました。 ・学校法人玉川学園と連携し、放置竹林に関する課題を周知し、課題の解決を図ることを目的としたイルミネーション企画「竹あかりが息づく丘」を実施しました。	(3)多様な主体との連携による里山環境の再生 ・協議会に参加する山間部の自治体や事業者と連携し、山林の再生や資源の活用に取り組めます。 ・本企画をスタートアップに、同法人と連携して放置竹林などの課題解決に取り組めます。	(3)多様な主体との連携による里山環境の再生 ・「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会に参加し、都内における森林整備やカーボンオフセット、現場体験、木材利活用などについて都内の自治体と連携して取組みました。	(3)多様な主体との連携による里山環境の再生 ・協議会に参加する山間部の自治体や事業者と連携し、山林の再生や資源の活用に取り組めます。		
		②事業者等と連携して里山の環境・資源を活用します	(1)里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・小山田エリアの作業路整備について、道路の線形を確定し、整備に影響する樹木の調査および測量を実施しました。	(1)里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・作業路整備に向けた設計を実施します。	(1)里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・小山田エリアの作業路整備について、道路の線形や勾配等について沿線地権者との調整を進めました。	(1)里山資源の活用に必要なインフラ整備 ・作業路整備に向け設計を実施します。		
			(2)多様な主体との連携・協働による里山資源の活用 ・町田青年会議所と協働し、「まちだSDGsアワード2024～里山を活用した循環型ローカルSDGsの構築～」を開催しました。里山資源の重要性や地域団体など連携・協働して里山の活用に取り組む必要性を広く周知するとともに、里山を活性化させるアイデアを募集しました。 ・小野路エリアで活動する市民団体が加工した市内産メンマを、市職員を対象に販売しました。あわせて、購入者に対しメンマおよび竹の活用に関するアンケート調査を実施しました。 ・市有山林の維持保全により発生した伐採木を、椎茸栽培の原木として利用する取組の推進について、町田市農業協同組合椎茸部会と協定を締結しました。 ・「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会の枠組みを活用し、協議会に参加する区市自治体の住民を対象とした現場体験事業の実施に向け、東京都および市民団体、施設管理者と協議しました。 ・学校法人玉川学園と連携し、放置竹林に関する課題を周知し、課題の解決を図ることを目的としたイルミネーション企画「竹あかりが息づく丘」を実施しました。(再掲)	(2)多様な主体との連携・協働による里山資源の活用 ・里山を活性化させるアイデアやイベント展示での聞き取り、メンマ販売でのアンケート調査を参考に、里山資源の活用について、情報収集や調査研究を行うとともに、情報の発信など普及・啓発に取り組めます。 ・伐採木の椎茸栽培への活用について、町田市農業協同組合と連携し取組を推進します。 ・2025年度に「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会の枠組みを活用した現場体験事業を、相原エリアの指定管理者、小野路エリアの市民団体と協働して実施します。 ・学校法人との連携を継続し竹材や木材の利用推進に取り組めます。	(2)多様な主体との連携・協働による里山資源の活用 ・市有山林の維持保全により発生した伐採木を、しいたけ栽培の原木として市内の社会福祉法人が利用する仕組みを構築しました。 ・「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会の枠組みを活用し、協議会に参加する区市自治体の住民を対象とした現場体験事業を、東京都および市民団体、施設管理者と連携して実施しました。 ・学校法人玉川学園と事業連携協定を締結しました。協定に基づき、玉川大学の学生に対して放置竹林に関する課題を解説し、課題解決を目的としたイルミネーション企画「竹あかり・ゆらぎの丘」が実施されました。 ・里山の木を使う試行的な取組として、伐採木(街路樹)を使ったネームカードホルダーを試作しました。ネームカードホルダーは市職員にモニター販売し、使用感などのアンケートを実施します。また、幼児用おもちゃも製作して保育園や子どもセンターへ配布しアンケートを実施します。	(2)多様な主体との連携・協働による里山資源の活用 ・引き続き、伐採木のしいたけ栽培への活用について、町田市農業協同組合や社会福祉法人と連携し取組むとともに、伐採木のさらなる活用を検討します。 ・引き続き、「多摩の森」活性化プロジェクト推進協議会の枠組みを活用した現場体験事業を、相原エリアの施設管理者、小野路エリアの市民団体と協働して実施します。 ・学校法人玉川学園と引き続き竹材や木材の利用推進に取り組むほか、里山環境の活用について共同で調査研究を行います。 ・伐採した里山の木を製材し、木工の材料として活用できるよう準備を進めます。また、アンケートを参考に、里山の木を使用した木工品を作成し、活用実績を増やします。		
			(3)里山で活動したい人を受け入れる環境を整備します	(1)参画しやすい環境の整備 ・拠点施設の機能や里山環境の活用に関連する事業者を対象にマーケットサウンディング調査を実施し、事業者参画につながる提案を受け付けました。	(1)参画しやすい環境の整備 ・事業者からの提案を精査し事業者が参画しやすい環境を整えます。	(1)参画しやすい環境の整備 ・市の民間事業提案制度を活用し、事業者を対象に、里山環境の活用に関連する事業提案を広く募集しました。	(1)参画しやすい環境の整備 ・事業者からの提案を精査し、事業者が参画しやすい環境を整えます。	



重点事業名	指標	取組	実施内容	評価	今後の予定	実施内容	評価	今後の予定	備考
活動に参加する団体や企業・個人など、担い手の確保と支援	活動に参加する団体数		<p>(1)新たな担い手の確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市庁舎1階イベントフロアにおいて、小山田・小野路エリアで竹林整備に取り組む市民団体の活動を周知しました。 ・「まちだみどり活用ネットワーク」において、様々な担い手が連携して、4月に「春の里山体験ファミリーワークショップ」、7月に「すしまいちち＆運まつり」、10月に「ハナバチ＆野草里山ワークショップ」を実施しました。また、「まちだのみどりを活かし、みどりと暮らす」をテーマにシンポジウムを開催し、基調講演と関連する団体の代表者によるトークセッションを実施しました。 		<p>(1)新たな担い手の確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動する団体などの取組が新たな担い手の確保につながるよう、必要な支援を行います。 ・引き続き「まちだみどり活用ネットワーク」により、持続的にみどりを活用する取組を検討し実施します。取組やホームページ・SNS等を通じて周知を図り、新たな担い手の参加や連携を促進します。 	<p>(1)新たな担い手の確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市庁舎1階イベントフロアで実施した「まちだの木」活用プロジェクトのPR展示企画において、小山田・小野路エリアで竹林整備に取り組む市民団体の活動を周知しました。 ・小野路エリアで活動する団体が、小野路エリアの農家等と連携し、里山遊びや散策、農業体験などを組み合わせたイベント「小野路さとやま農さんぼ」を実施しました。取り組みについてホームページやSNS等を通じた周知を行いました。 		<p>(1)新たな担い手の確保に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ホームページやSNS等を通じて団体の取組を周知を図るなど、主催団体へ支援を行い、新たな担い手の参加や連携を促進します。 	
		新たに活動を行う団体等への助言や支援を行います	<p>(2)地域・団体・企業等と連携した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小野路エリアにおいて、12月に町内会と協働して里山の散策と清掃活動を実施しました。 ・小山田エリアにおいて、10月に新たな市民団体と市有山林の活用について協定を締結し12月から活動をはじめました。(再掲) 	△	<p>(2)地域・団体・企業等と連携した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域や団体、企業などと連携した取組を実施します。 	<p>(2)地域・団体・企業等と連携した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市庁舎1階イベントフロアで実施した「まちだの木」活用プロジェクトのPR展示企画において、市内で活動する木材加工事業者と連携し、まちだの木を使用した木製小物作成のワークショップを実施しました。 	△	<p>(2)地域・団体・企業等と連携した取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、地域や団体、企業などと連携した取組を実施します。 	
			<p>(3)企業版ふるさと納税の事業エントリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税について、寄付の使い道を「里山環境の保全を行う団体の活動の支援」と具体的に示し、寄付しやすい環境を整え、事業者から寄付をうけることができました。 		<p>(3)企業版ふるさと納税の事業エントリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税の制度を通じて、まちだの里山の取り組みをPRします。 	<p>(3)企業版ふるさと納税の事業エントリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税の制度を活用し、市内外の事業者に対し、市の里山環境の活用と保全の取組の周知とともに、事業への参画をPRしました。 		<p>(3)企業版ふるさと納税の事業エントリー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、企業版ふるさと納税の制度を通じてまちだの里山の取り組みをPRし、事業者の参画を促します。 	
「まちだの里山」の戦略的な情報発信	まちだの里山の来訪者数		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の団体や法人、施設管理者などにおいて、里山資源を活用したワークショップや自然環境を学ぶ勉強会など、里山への興味関心を促す取組を実施しました。 ・市庁舎1階イベントフロアにおいて、庁内における伐採木の活用に取り組む「まちだの木活用プロジェクト」と、小山田・小野路エリアで竹林整備に取り組む市民団体の活動を周知しました。(再掲) ・町田青年会議所と協働し、「まちだSDGsアワード2024～里山を活用した循環型ローカルSDGsの構築～」を開催しました。里山資源の重要性や地域団体など連携・協働して里山の活用に取り組む必要性を広く周知することができました。(再掲) ・複数のメディアで「まちだの里山」や里山で活動する団体の取組が紹介されるなど、市内外に発信することができました。 ・引き続き、既存の活動団体と協働し、SNSにて小野路エリアの里山で行うイベント参加者募集など活動を発信し、参画を促しました。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・庁内外の連携による様々な取組を市や連携相手の広報ツールを通じ、積極的に発信します。 ・引き続き、まちだの里山での活動の様子や里山の魅力を発信し、里山での活動の参画につなげます。 ・企業版ふるさと納税の制度を通じて、まちだの里山の取り組みをPRします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数のメディアで「まちだの里山」や里山で活動する団体の取組が紹介されるなど、市内外に発信することができました。 ・東京都公園協会が主催する「TOKYOつながる里山サミット2025」に参加し、まちだの里山の取り組みをPRしました。 ・内閣府が推進する「地方創生SDGs」と連携した民間企業による「地域の魅力に気づく・興味を持つきっかけを作るための企画」に参加し、Web記事が掲載されたほか、小田急線海老名駅構内でのイベントに出展します。 ・市が主催する環境に関するイベント(EGotoフェスタ)に参加し、パネル展示とワークショップを実施して、里山環境や「まちだの木」の活用について情報発信を行います。 ・事業連携協定を締結した学校法人玉川学園と、まちだの里山とまちだの木活用フォーラムを開催します。 ・民間事業者からの事業提案の仕組みを活用し、まちだの里山の取り組みをPRしました。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、様々な広報媒体やイベントなどで、まちだの里山での活動の様子や里山の魅力を発信し、里山での活動の参画につなげます。広報媒体は町田市のものでなく、連携や協働の相手方の広報媒体も活用し発信します。 ・民間提案制度の制度を通じて、まちだの里山の取り組みをPRし、企業等の参画を働きかけます。 	<p>※ まちだの里山の来訪者数 交流回遊拠点施設(小野路宿里山交流館)の来館者数と里山環境の保全活用団体実施するイベント等の参加者数の合計</p> <p>※2025年度の成果(見込)について ・里山交流館の12月末の来館者数 23,888人 ・1月から3月の来館者(見込) 2,000人×3か月=6,000人強 ・2025年度来館見込み 30,000人</p> <p>イベント等の参加者数 ・2025年度参加者(見込) 5,000人</p> <p>2025年度の里山の来訪者数(見込) 35,000人</p>

